

中学校保健体育

指導のポイント

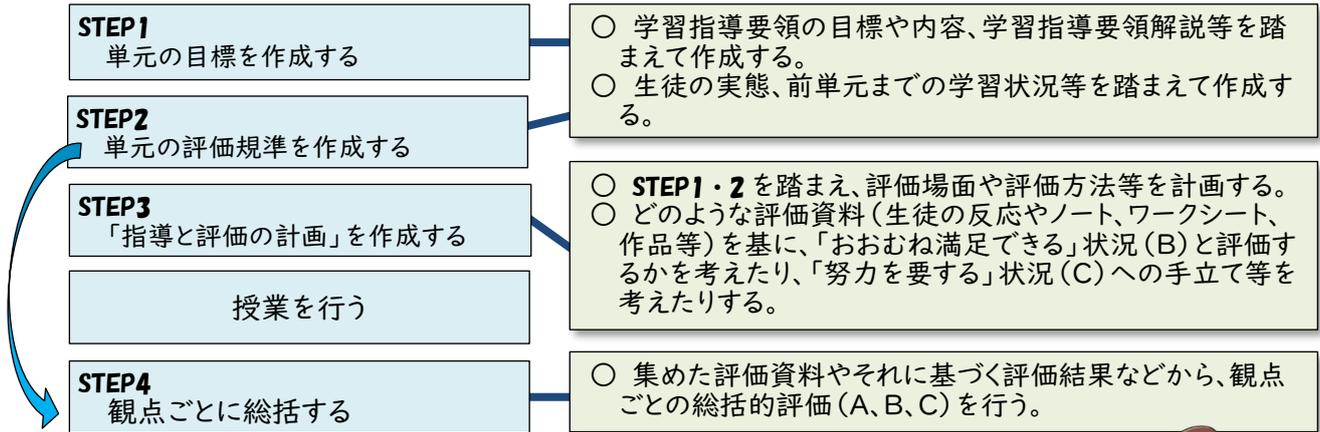
単元で取り上げる指導内容に基づいて、単元の目標を設定し、それを実現するために適した学習活動を位置付け、課題解決に向けた学習過程を重視した単元を構想しましょう。

評価のポイント

評価規準に基づいて、どのような生徒の動きや記述等があれば「おおむね満足できる」状況と評価できるのか、体育分野・保健分野それぞれの具体的な生徒の姿を想定しておくことが大切です。

1 学習評価の進め方について

保健体育科においては、単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要です。その上で、以下のように進めることが考えられます。



2 単元の評価規準の作成例

(第1学年及び第2学年 C 陸上競技 短距離走・リレー、ハードル走)

手順1: 2年間を見通して、指導事項をバランスよく配置する

例示等で示された2年間の指導事項について、実施時期や配当時間等を踏まえ、資質・能力の3つの柱をバランスよく配置する。

手順2: 学習指導要領解説例示等を基に、第1学年及び第2学年の内容のまとめ「C 陸上競技」における全ての「単元の評価規準」を設定する

第1学年及び第2学年の内容のまとめ「C 陸上競技」における全ての「単元の評価規準」を例示の文末を変えるなどして設定する。

- ・ 「知識」については、例示の文末を「～について、言ったり書き出したりしている」あるいは「～について、学習した具体例を挙げている」として設定する。
- ・ 「技能」については、例示の文末を「～ができる」として設定する。
- ・ 「思考・判断・表現」については、例示の文末を「～している」として設定する。
- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」については、意思や意欲を育てるという情意面の例示の文末を「～しようとしている」、健康・安全に関する例示の文末を「～している」として設定する。

POINT

体育分野においては、従前、「単元の評価規準」をもとに、さらに「学習活動に即した評価規準」を作成する事例を示してきましたが、本資料では、「学習活動に即した評価規準」を別途示さず、「単元の評価規準」として表記しています。

保健分野においては、「内容のまとめ」をそのまま「単元」として捉える場合と、「内容のまとめ」をいくつかの「単元」に分けて単元設定する場合が想定されます。

(例1)

「内容のまとめ」

→ 傷害の防止

「単元例」

→ 傷害の防止

(例2)

「内容のまとめ」

→ 心身の機能の発達と心の健康

「単元例」

→ 心身の機能の発達

→ 心の健康

手順3: 当該単元における「単元の評価規準」を設定する

手順1の2年間を見通した指導事項の配置と手順2の全ての単元の評価規準を基に、当該単元における「単元の評価規準」を設定する。

3 単元における指導と評価の計画例

事例 第1学年及び第2学年「C 陸上競技」
単元名 陸上競技：短距離走・リレー、ハードル走

POINT

単元の目標は、学習指導要領本文を参考に設定することができ、他の単元で指導し、評価する部分については、()で示します。



単元の目標	知識及び技能	次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や(成り立ち)、技術の名称や行い方、(その運動に関連して高まる体力)(など)を理解するとともに、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。 ア 短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ることやバトンの受渡してタイミングを合わせるなど、(長距離走では、ペースを守って走ること)、ハードル走では、リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すことができるようにする。											
	思考力, 判断力, 表現力等	動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。											
	学びに向かう力, 人間性等	(陸上競技に積極的に取り組むとともに)、(勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること)、(分担した役割を果たそうとすること)、(一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなど)や、健康・安全に気を配ることができるようにする。											
	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	授業づくりのポイント	
学習の流れ	0	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動・用具等の準備										<ul style="list-style-type: none"> ・三つの資質・能力の内容をバランスよく指導し、評価する。 ・具体的な知識と汎用的知識を関連させて指導し、評価する。 ・互いに教え合う時間を確保するなど工夫する。 ・指導事項の精選を図ったり、ICTを効果的に活用したりするなどして、体を動かす機会を適切に確保する。 ・観点別学習状況の個人・人の学習状況を把握し、生徒の学習に合わせた指導の成果や課題を明確にする。 	
	10	オ特性 エン テ健康 ーシ ョ安全	短距離走・リレー 滑らかな動き タイミングを合わせる 動きのポイント クラウチングスタート ピッチとストライド バトンの受渡し 課題や出来映えを伝える 責任					ハードル走 リズムカルな走り 滑らかにハードルを越す 動きのポイント 遠くからの踏み切り 抜き足の動作 インターバルの走り 練習方法を選ぶ			記 録 会		
	20		タイムの計測、記録										
	30	試 し の 記 録 会	用具等の片付け・整理運動・学習の振り返り・次時の確認										
	40												
50													
評価機会	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	評価方法	
	知	①	(②)	(②)	(②)		(②)	(②)	②			総括的な評価	
	技			①	②	③			④	⑤	⑥	学習ノート 観察	
	思 態		②				①				②	学習ノート、観察 観察、学習ノート	
単元の評価規準	知	①陸上競技は、自己の記録に挑戦したり、競争したりする楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりしている。 ②陸上競技の各種目において用いられる技術の名称があり、それぞれの技術で動きのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。											
	技	①クラウチングスタートから徐々に上体を起こしていき加速することができる。 ②自己に合ったピッチとストライドで速く走ることができる。 ③リレーでは、次走者がスタートするタイミングやバトンを受け渡すタイミングを合わせることができる。 ④遠くから踏み切り、勢いよくハードルを走り越すことができる。 ⑤抜き足の膝を折りたたんで前に運ぶなどの動作でハードルを越すことができる。 ⑥インターバルを3又は5歩でリズムカルに走ることができる。											
	思	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②提供された練習方法から、自己の課題に応じて、動きの習得に適した練習方法を選んでいる。											
	態	①用具等の準備や後片付け、記録などの分担した役割を果たそうとしている。 ②健康・安全に留意している。											

POINT

指導と評価を一体的に進めるために、「指導を充実させた上で評価を行うこと」及び「観点別学習状況の評価は、単元の終末にまとめて行うのではなく、指導場面に対して評価の機会を検討し設定することが重要です。」

単元の評価規準を作成する時は、1時間につき1~2程度の評価の観点にするなど、無理のない計画を立てます。その際、評価をしない時間が出てくる場合もあります。また、「技能」及び「態度」における評価は、指導後に一定の学習期間及び評価期間を設けます。「知識」及び「思考・判断・表現」における評価は、期間を置かず評価をします。